

令和6年度「全国学力・学習状況調査」における神屋小学校の結果について

【国語】

- ・ 「思考力・判断力・表現力」の内、「書くこと」については、県平均、全国平均いずれよりも高い正答率を示した。特に目的や意図に応じて優先順位を考えるなど、伝え合う内容を検討する際に集めた材料を関係付ける力については身に付いている児童が多いと言える。
- ・ その一方、「知識・技能」の観点で課題が残った。学年別漢字配当表に示されている漢字を確実に習得すること、日本語の文法を理解し言葉を文法の中で正しく使うことができるようになることが課題である。
- ・ 問題の傾向として、従来の文章（文学作品や説明的文章）の読み取りに対して、今回の「オンライン会議・交流」の場面を想定した問題など、実生活に即したものが題材になることが多くなってきている。教科の学習をその教科で終わらせずに、児童らの実生活に還元できるよう学習課題を工夫して設定する必要があると思われる。
- ・ 基礎・基本の確実な定着・深化を目指して従来のドリル学習と並行して一人一台端末やAIドリルの活用も進めていく。

【算数】

- ・ 正答率は県平均、全国平均と概ね同程度であり、本校6年生児童の算数科の学力は概ね身に付いていると言える。
- ・ 「図形」領域については総じて県平均・全国平均を上回る結果であったが、図形の特徴を言葉と数で説明する記述式の問題については課題が見られた。
- ・ 「変化と関係」領域については概ね平均的ではあるが、「速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できるかどうか」という問で課題が残った。
- ・ 国語同様、実生活に即したような一見して算数のように見えない合科的な設問が出題された。これらの問題に対しての不慣れさが結果に表れたように思われる。今後、教科で学んだことを生かしながら問題を解決できるよう、教科領域の枠を超えた活動を繰り返し経験させたい。

【児童質問紙】

- ・ 「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に対して「当てはまる」と回答した児童が比較的少なかった。その一方で「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「人が困っているときはすすんで助けますか」「友達関係に満足していますか」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれぐらいありますか」という質問に対しては肯定的な回答が多かった。以上を踏まえ、本校の6年生児童の傾向として「自己評価は低いが自分自身良くありたいと思い、日常への満足度は比較的高い」ということが言えると考えられる。今後、彼らの活動をその成果だけではなくその過程を積極的に周囲の大人が認め称賛することで成功体験を積み上げ自己肯定感そのものを高めていきたい。
- ・ 基本的な生活習慣に関わる質問に対しては、朝食を食べない日があったり、毎日決まった時刻に就寝起床できなかつたりする児童が例年より増えている。家庭・地域と協力しながら、基本的な生活習慣の改善を目指したい。
- ・ 国語・算数の学習について、「好きではない」という主旨の回答が多く、また家庭での自主学習の時間についても県平均・全国平均にくらべ少ないという結果が見られた。今後家庭との連携を密にし、児童らの学習にたいする感情や姿勢の改善に努めたい。
- ・ 一人一台端末の活用について、児童らの意識は概ね県平均・全国平均との大きな差は見られなかった。本校としては情報機器活用を進める一方で、学校司書と連携・協力し従来の読書活動を推進するなどハイブリットな学習を模索していきたい。